

平成 27 (2015) 年度 相愛中学校・高等学校「学校評価」

1. めざす学校像

相愛学園では、創立 125 周年を機に、「建学の精神」に立ち戻り、改めて学園教育理念を定め、また教育方針を確認。学園教育理念「當相敬愛」を単にスローガンで終わらせず、本校のすべての教育活動の基軸に据え、「自己肯定感」・「関係性の力」をキーワードに、「當相敬愛」を軸にして進化した独自の人間形成教育に努める。教育活動として、現代の時代状況に応じる「新しい学び」として、「学習力」強化・「人間力・こころの教育強化」の推進・「国際教育」の充実を 3 本柱とする。

2. 中期的目標

1. 学習力強化

- ・自習室を充実させ、生徒がより効率的に学習できる環境を整える。
- ・朝テスト、各種検定、スコラ手帳、自習室の活用等、現在実施している教育活動を継続・深化・系統化させることにより、教育レベルの向上をめざす。

2. 人間力・こころの教育強化の推進

- ・自らの「意見形成」を行い、発言・行動できる力を身に付ける。
- ・「宗教行事」・「クラブ活動」を通じ、互いに影響を与え合い、高め合う人間関係形成力を培う。

3. 国際教育の充実

- ・生徒の英語コミュニケーション力の向上と国際社会への理解を深める。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [2015 年 12 月実施]	学校評価委員会からの意見
○生徒 昨年同様、学校行事関連の項目で全体的に高い満足度が示されている。中でも「1 宗教的行事」が最も高い評価となり、次いで「16 学校行事の充実」「17 クラブ活動の充実」の評価も高く、中学校のみの分析では最も高い評価結果となった。 ○保護者 生徒とほとんどの質問で同様の結果となったが、全体的に生徒より高い評価となっている項目が多い。 ○教員 昨年同様、学習指導の項目で生徒・保護者の評価と開きがあり大きく改善はされていない。「大学進学対応」の項目でも生徒・保護者と教員間の差がありこちらは教員の評価が低くなっている。これらの差を埋めるべく、本年度より実施した授業アンケートをもとに、具体的な問題点の改善に取り組む。 「9 礼儀・服装・協力姿勢育成指導」が高評価な点は変わらず、本校の魅力の中でも強調できる点であるといえる。今後もすべてにおいて高い評価が得られるよう、教職員一同努めたい。	生徒たちの印象から、のびのびとしながらも規律正しい心の教育が行われていることは感じ取れ、アンケート結果で「宗教的行事」「礼儀・服装・協力姿勢育成指導」の評価が高い点からもこのことがうかがえる。しかし昨年引き続き学習指導の項目において教員と保護者・生徒の評価に大きな開きがあり、感覚のずれがあることは気になる点である。問題対応についても生徒と教員に評価の開きがあるが、こちらは教育的配慮による立場の違いも考えられ、保護者評価が教員評価に近い点からもそのことがうかがえる。評価に大きな開きはないが、進路に関する説明会や懇談などは重要であり今後もより充実した対応を希望する。又、大学進学対応と施設・設備について保護者・生徒の評価より教員評価が著しく低い点は気になる点である。施設設備については私学でもあり十分な整備が望まれるが、老朽化している施設等については耐震面での問題もあるので早急に改善を行うべきである。

3. 本年度の取組み内容および自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習力強化	(1)学力の向上 ア 教育改革の推進 (将来構想委員会) イ 高校「普通科専攻選択コース」の設置 (将来構想委員会) ウ 「ブラッシュアップ English」と習熟度別授業の継続実施 エ 全学年への朝テスト、漢字検定・英語検定等、資格取得の継続実施	ア 学校教育改革プロジェクトチームを中心に各種プロジェクトを推進し、女子教育に特化した進化したカリキュラムや教育内容を構築・検討する。 イ 在校生徒や新入生の希望進路実現のため、高校「普通科進学コース」を「普通科専攻選択コース」に変更 ウ 高校普通科に「ブラッシュアップ English」、中学に英語・数学の習熟度別授業を実施する エ 朝テストを実施。漢字検定・英語検定受験の徹底	ア 具体的目標の提示とコース変更実施の有無 イ 生徒・保護者の満足度向上・新入生増 ウ 状況にあった取組・結果 エ 生徒・保護者の満足度向上	ア 平成 26 年度より推進している各種プロジェクトにより増加した入学者も 27 年度は横ばい状態であった。しかし、このまま各種のプロジェクトを推進しながら、改良すべき点は改良し、安定した生徒確保へつなげる。 又、中学校の魅力を強めるため、「各教科指導」内容を検証し、「総合的な学習の時間」の再構築も含めてカリキュラムの検討を継続して行う。 イ 平成 26 年度に高校「普通科進学コース」を「普通科専攻選択コース」に変更。7 つの専攻（文系・理系・文理系・幼児教育・看護受験・栄養・教養マナー）を高校 2 年次より選択できるカリキュラムの実施。変更 2 年目で実施した上での問題点や改良すべき点を検証しより充実したカリキュラムとなるよう変更を行っていく。 ウ 高校普通科に「ブラッシュアップ English」、中学に英語・数学の習熟度別授業を実施したことで、生徒の学力レベルに対応した授業を展開し、一定の成果は見られているが、引続き学力向上をめざす。 エ、1 限目開始前に朝テストを実施、基礎学力の定着をはかる。 漢字検定・英語検定受験の機会を設け、併せて試験合格に向けてのより具体的な取り組みを行う。その結果、上位級を合格する生徒も出てきている。

	オ 学習環境の整備	オ 教員室前の質問コーナーの増設、自習室の移設・個別ブースの設置	オ 状況にあわせ取り組む	オ 昨年までに、教員室前の質問コーナーの増設、自習室の移設・個別ブースの設置等をし、生徒各自の学習上の弱点補強をおこない、始業前・放課後にも今まで以上に集中して学習できる環境を整えた。今後はより充実した環境を整えることにより成績の向上につなげていく。
2 人間力・こころの教育強化推進	(1)進路・キャリア教育 ア 進路指導とキャリア教育の充実	ア 進路指導部・キャリア教育推進部と各学年の連携のもと、全学年での系統的なキャリア教育を推進。	ア 生徒・保護者の満足度向上と合格実績向上	ア 高1から校内ガイダンスを実施し、将来の自分の進路を考え、高2では、浄土真宗本願寺派宗門校の各大学（相愛大学、龍谷大学、京都女子大学）への直接的な体験の場面を設定、さらに各学問分野のガイダンス実施により、進路がより明確になるようにした。
	(2)行事の充実 ア 生徒会活動の充実	ア 体育祭の外部大型体育館での開催ならびに文化祭の内容・運営の見直し	ア 生徒・保護者の満足度向上と人間力向上	ア 中央体育館で実施した昨年度の反省点をふまえ、場所を府立体育館に変更した。実施について天候に左右されないのが非常に評価が高い反面、気候により屋内とはいえ熱中症対策が必要と考えられる。文化祭では全校生徒が関わるモザイクアートの製作、高3生の調理による模擬店運営を行うなど、生徒自身も相互協力により成果を実感できた。
	イ 総合的な学習の充実	イ 総合的な学習の時間のより一層の充実	イ 生徒の満足度向上と人間力向上	イ 日本の伝統文化にふれる「華道」「茶道」、専門家から個別指導を受けられる「吹奏楽」、また心身の健康と安定をめざす「ヨガ」は依然として希望者も多い。これらを継続しながらも、より一層の充実を図る。

	(3)宗教教育 ア 宗教教育と日々の礼拝の充実	ア 各種宗教行事の参加や充実した心の教育	ア 生徒・保護者の満足度向上	ア 龍谷総合学園が提唱する各種の交流、体験の機会に積極的に参加した。中2ではオータムスクールで築地本願寺での法要への参加も行った。また、毎朝毎夕の教室礼拝指導を改めて見直し、指導の徹底、法要での法話の感想の提出などを行い生徒の積極的な参加を促すような対策を行った。なお、教職員に対する研修の機会を増やし建学の精神とみ教えを今一度共有し、宗教教育を学校全体で取り組む体制をとり、社会全体で倫理観が低下している現状から、なお一層の充実を図る。
3 国際教育の充実	国際交流プログラム ① 修学旅行の海外渡航 ② 国際交流プログラム	① 高2 修学旅行 グアム ② ハワイ Pacific Buddhist Academy (以下、「PBA」)での語学研修プログラム実施 (中3～高3 対象) イギリス「バンガー大学」への研修プログラム	①生徒の満足度が非常に高い ②参加者の満足度並びに、交流校の評価向上	① 昨年のシンガポールから今年はいき先をグアムに変更し、地元の学生との交流などにより、語学への興味・関心を高めて国際理解、国際教育の充実を図れた。 ② 本校と建学の精神を共にする、PBA での語学研修を10日間夏期に実施。ホームステイやPBAの生徒との交流・異文化体験を通し国際感覚を磨く機会を設けた。加えてそれを更に発展させたものとして、1ヵ月間PBAの通常授業で学習する研修を実施。又、27年度よりイギリス「バンガー大学」とも教育連携を結びホームステイやフィールドトリップを通して英国の歴史や文化を学ぶ。参加生徒達は英語の習得に関心があり、教員も理解が深まっている。平成27年度は「PBA」での夏期10日間および6週間の研修、冬期に高3生を対象に6週間の研修、「バンガー大学」への夏期研修を実施した。